

宜 基 涉 第 23 号  
平成 26 年 12 月 24 日

第三海兵遠征軍司令官  
沖繩地域調整官 ジョン E. ウィスラー 中将殿

宜野湾市長 佐喜眞 淳

米軍機の夜間飛行自粛及び、年末・年始における普天間飛行場周辺での飛行訓練の自粛  
について（抗議・要請）

普天間飛行場は SACO 合意から 18 年、沖縄国際大学へのヘリ墜落事故から 10 年が経過した今なお、本市のど真ん中に存在し続け、市民は墜落の危険性や、騒音をはじめとする基地負担を強いられている。

夜間騒音については、市民生活へ与える影響が特に大きいことから、改善を強く求めているが、12 月 17 日の夜 10 時 50 分に上大謝名地区において 94.9dB の騒音が記録されるなど、先週は 14 件の苦情が集中的に寄せられており、市民に大きな負担を与え大変遺憾である。

また、航空機騒音に関しては、「普天間飛行場における航空機騒音規制措置」において、「周辺地域社会にとって特別意義のある日については、訓練飛行を最小限にするよう配慮する」ことになっている。

これから新年を迎えるにあたり、厳かに過ごすべき年末年始が、米軍機の訓練に伴う騒音によって影響を受けることがあってはならない。

については、下記事項を強く要請する。

#### 記

- ・市民生活へ深刻な影響を及ぼしている米軍機による夜間飛行について、厳重に抗議するとともに、夜間飛行を中止すること
- ・正月三が日を含む年末・年始の、普天間飛行場における飛行訓練及びエンジン調整を自粛すること